

水稻の生育状況と今後の管理対策（第4号）

令和8年7月1日
新潟県農林水産部

- ◎ コシヒカリでは、生育が進んでおり、葉色が低下しています。
- ◎ 中干し^{*1}は、遅くとも出穂期の1か月前までに終了し、以降は徐々に水を入れ、飽水管理^{*2}に移行しましょう。
- ◎ コシヒカリでは、幼穂を早めに確認し、1回目穂肥^{*3}の量と時期を判断しましょう。

*1 中干し（なかぼし）：田の水を落として、一時的に田を乾かすこと。

*2 飽水管理（ほうすいかんり）：土壌を湿潤状態に保つこと

*3 穂肥（ほごえ）：穂が出る前に追肥すること

〔6月30日現在の県内全域の生育概況〕

【指標値（生育のめやす）に比べた生育状況】

- コシヒカリ：草丈「やや長い」、茎数「やや多い」、葉数の進み「やや早い」、葉色「淡い」
- 新之助：草丈「やや長い」、茎数、葉数の進み、葉色はいずれも「並」

〔気象予報と今後の生育見込み〕

- 6月25日発表の北陸地方1か月予報（6月27日から7月26日）は、平均気温は高く、降水量、日照時間ともほぼ平年並と予想されています。
- コシヒカリの幼穂形成期及び出穂期は平年より早まる見込みです。

〔今後の管理対策のポイント〕

水管理

- 中干しは乾かし過ぎに注意し、遅くとも出穂期の1か月前までに終了しましょう。中干し終了後は、徐々に水を入れ、飽水管理に移行しましょう。
- 限りある用水を有効に活用できるよう、水路や畦畔等からの漏水がないように点検・補修を行いましょう。また、かん水する際は、こまめに水回りを行い、かん水が終了したら速やかに水口を止めて節水に努めましょう。

穂肥施用

<コシヒカリ>

- 今後の気象によっては、更に葉色が低下する可能性があることから、葉色の淡い場合は、飽水管理により土壌水分を維持しましょう。
- 幼穂を早めに確認して幼穂形成期を把握し、1回目の穂肥の施肥量と施肥時期を判断しましょう。（次ページの「コシヒカリの生育診断と穂肥施用のタイミング」を参照）。

<早生品種>

- 品種によっては既に幼穂形成期となっており、出穂期は平年より早まると予想されるため、ほ場・品種ごとに幼穂を確認し、遅れずに穂肥を施用しましょう。収量確保のため、確実に穂肥を施用し、出穂期まで葉色を維持してください。

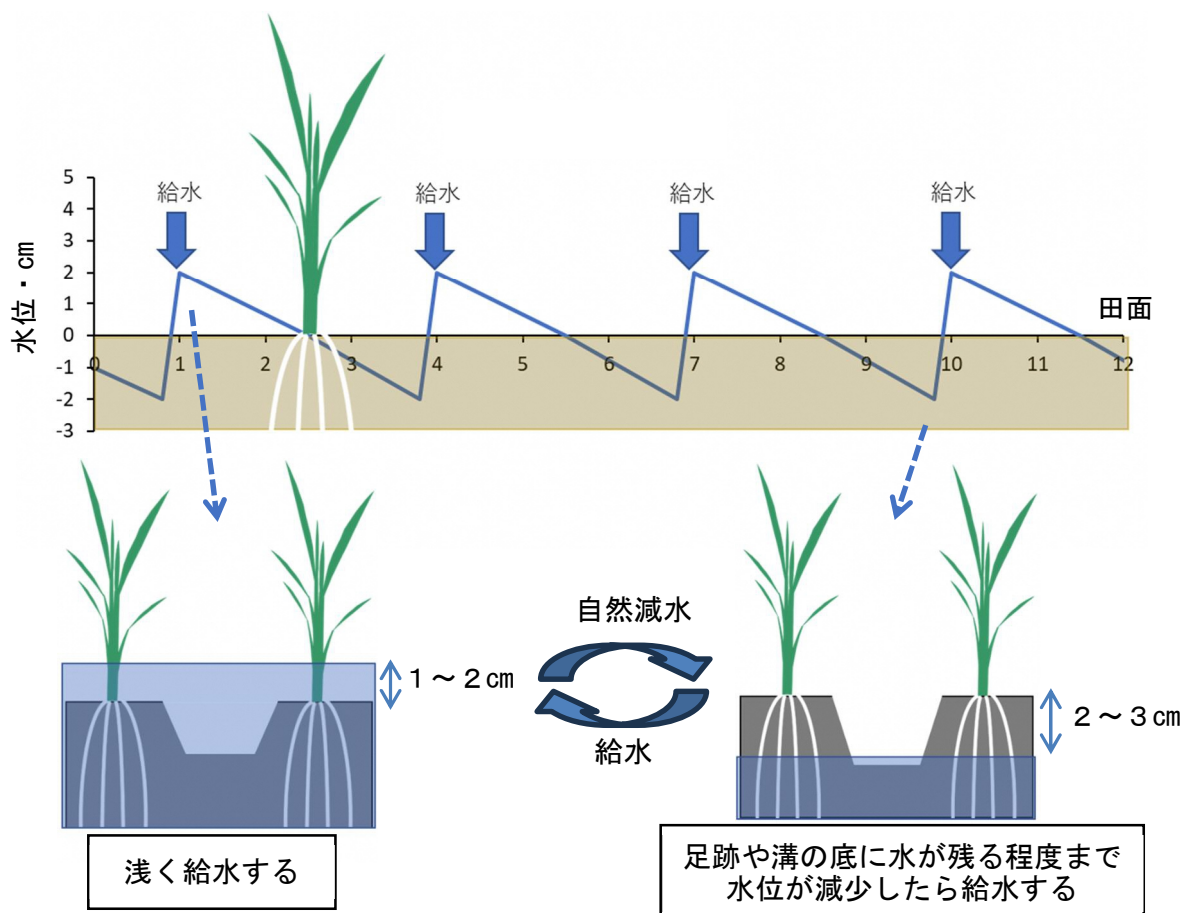
ケイ酸入り資材の施用

- ケイ酸が不足している地域や、春にケイ酸入り資材を施用していないほ場は、品質低下を軽減するため、出穂期 40 日前から 1 回目穂肥の時期にケイ酸入り資材を施用しましょう。

病虫害防除

- 県内で葉いもちの発生が確認されています。いもち病に弱い品種で葉いもちの発生を確認した場合は、薬剤防除をしてください。
- 斑点米カメムシ類の水田畦畔での発生がやや多めとなっています。斑点米カメムシ類の密度を抑制するため、イネ科雑草が実をつける前に畦畔・農道等の草刈りを行いましょう。また、斑点米カメムシ類の増殖源とならないよう、ほ場内にヒエ、ホタルイ等がみられる場合は除草を行いましょう。

飽水管理のイメージ



コシヒカリの生育診断と穂肥施用のタイミング

分施肥体系

◆ 1回目

(出穂期18～15日前)

幼穂形成期に生育調査をして**診断**する

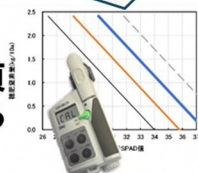
幼穂形成期の 草丈(cm)×葉色(SPAD値)	幼穂伸長期間の気象予報		
	低温・少雨・多雨	平年並	高温・多雨・少雨
2500未満	○△	◎	◎
2500～2800未満	×	×	○
2800以上	×	×	×△

葉色が淡ければ**増肥**もあり

◆ 2回目

(出穂期10日前頃)

予測出穂期の10日前頃
葉色を測定して**診断**する



全量基肥施肥体系

化学肥料100%

有機50%入り肥料

◆ 穂肥の**不足分**を
追加する

◆ 出穂期3日前まで

登熟期間の高温が予想され葉色が淡い場合(葉色を測定して**診断**する)

分施肥体系

(出穂期6～3日前)

※3回目穂肥に相当

全量基肥施肥体系

(出穂期10～5日前頃)

肥料の種類と葉色
により**診断**し追加



熱中症予防

- 気温が高く、特に湿度が高い場合は熱中症発生のリスクが高まります。
- 農作業中は、定期的に水分・塩分を補給し、帽子等で直射日光をさえぎるほか、暑さ対策用品を活用して身体を冷やすなどの熱中症予防対策を必ず行いましょう。
- 気温の高い時間帯に作業しない、単独で作業しない、休憩はこまめにとるなど、十分配慮してください。

○ 今後の管理対策発信予定日 7月9日・22日・28日・31日、8月20日

〔補足資料〕

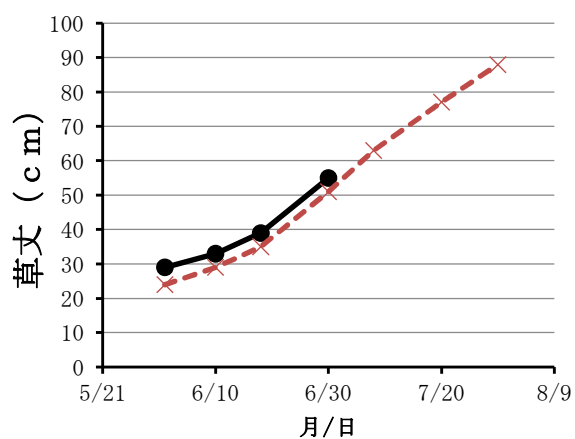
1 農業普及指導センター及び作物研究センターの生育状況（6月30日現在）

コシヒカリ

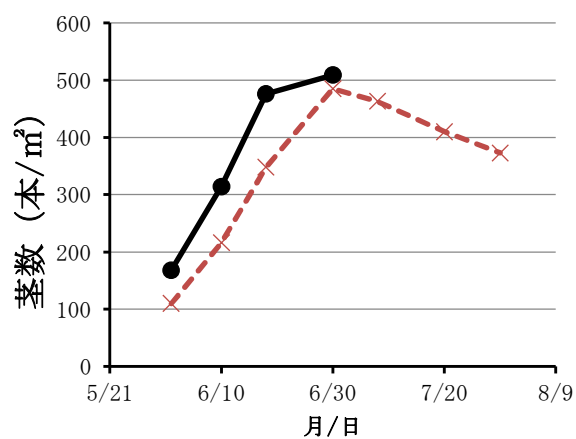
指標値（生育のめやす）に比べ、草丈は「やや長い」、茎数は「やや多い」、葉数の進みは「やや早い」及び葉色は「淡い」です。

項目	本年値	指標値 (県平均)	指標値 との比較	指標値比・差
草丈	55 cm	51 cm	やや長い	108%
茎数	509 本/㎡	485 本/㎡	やや多い	105%
葉数	10.5 葉	9.9 葉	やや早い	+0.6 葉
葉色 (SPAD 値)	36.1	38.4	淡い	-2.3

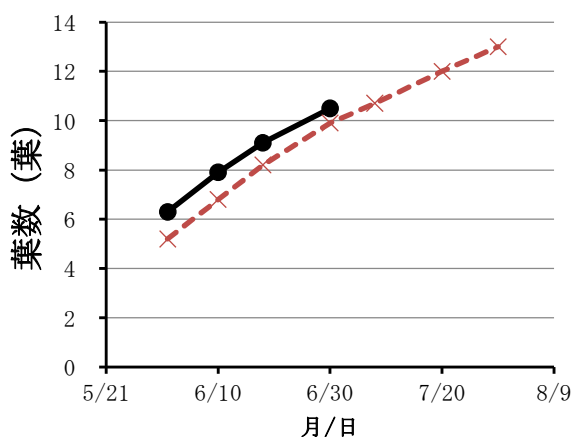
注) 県内全域の14生育調査はデータの平均値（田植え5月11日、栽植密度16.9株/㎡）



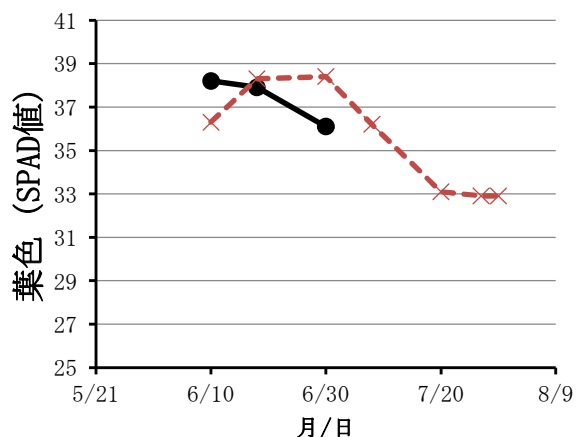
● 本年値 × 指標値
草丈の推移
(県全体)



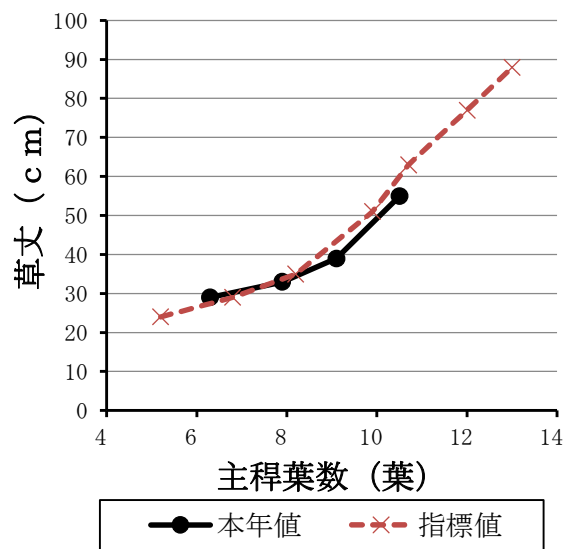
● 本年値 × 指標値
茎数の推移
(県全体)



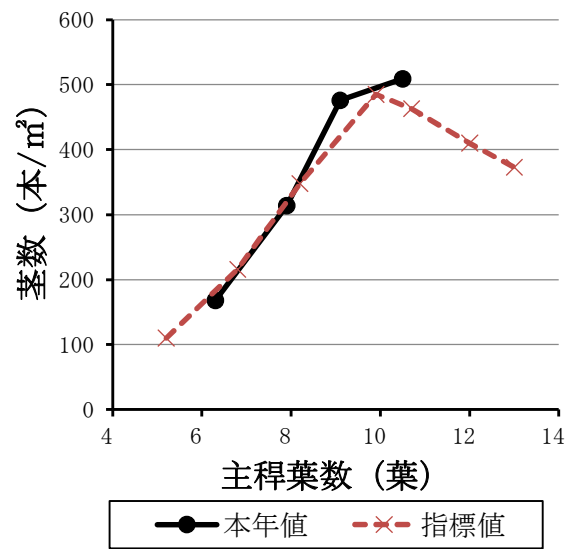
● 本年値 × 指標値
葉数の推移
(県全体)



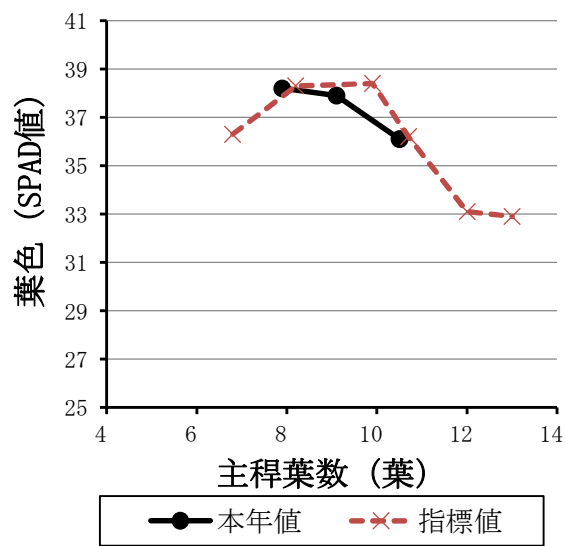
● 本年値 × 指標値
葉色の推移
(県全体)



葉数と草丈
(県全体)



葉数と茎数
(県全体)



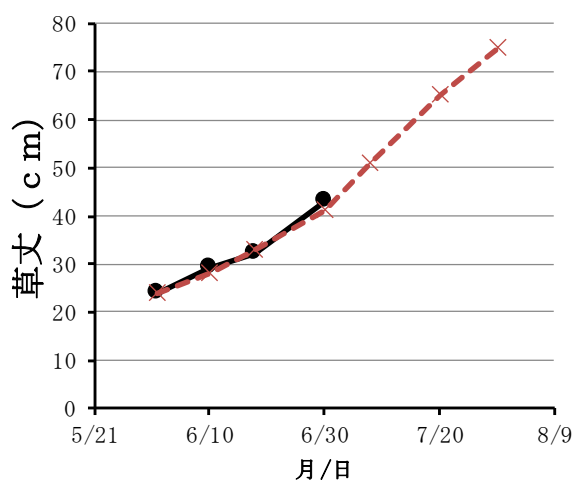
葉数と葉色
(県全体)

新 之 助

指標値（生育のめやす）に比べ、草丈は「やや長い」、茎数は「並」、葉数の進みは「並」及び葉色は「並」です。

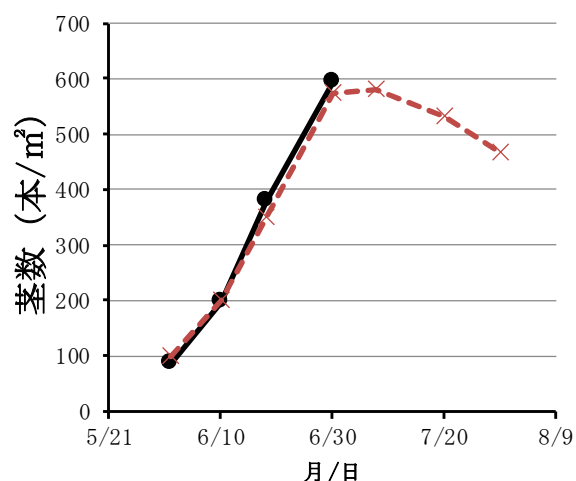
項目	本年値	指標値	指標値との比較	指標値比・差
草丈	43 cm	41 cm	やや長い	105%
茎数	594 本/㎡	574 本/㎡	並	103%
葉数	10.2 葉	10.1 葉	並	+0.1 葉
葉色 (SPAD 値)	37.3	37.5	並	-0.2

注) 県内全域の14生育調査ほデータの平均値（田植え5月19日、栽植密度16.1株/㎡）



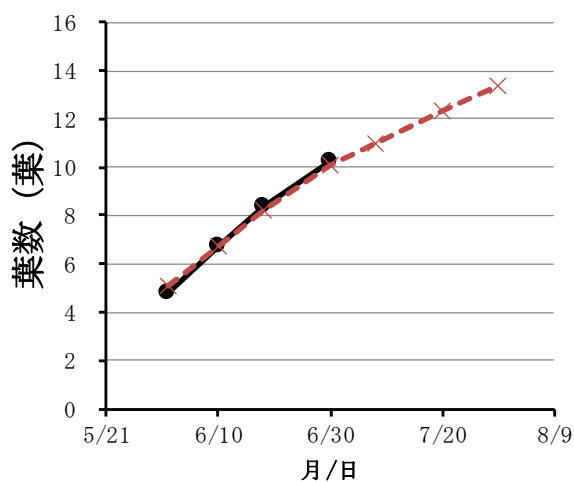
● 本年値 × 指標値

草丈の推移
(県全体)



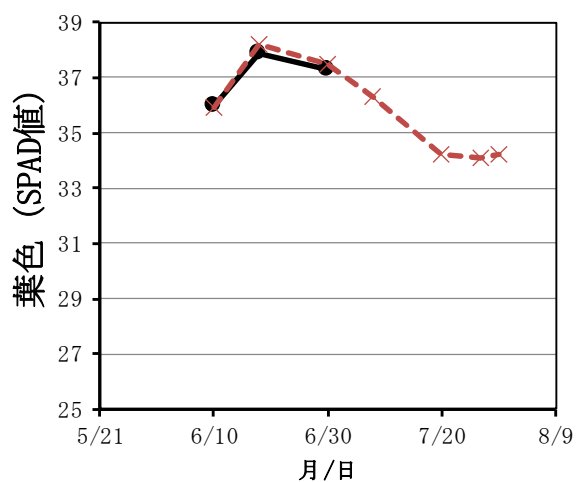
● 本年値 × 指標値

茎数の推移
(県全体)



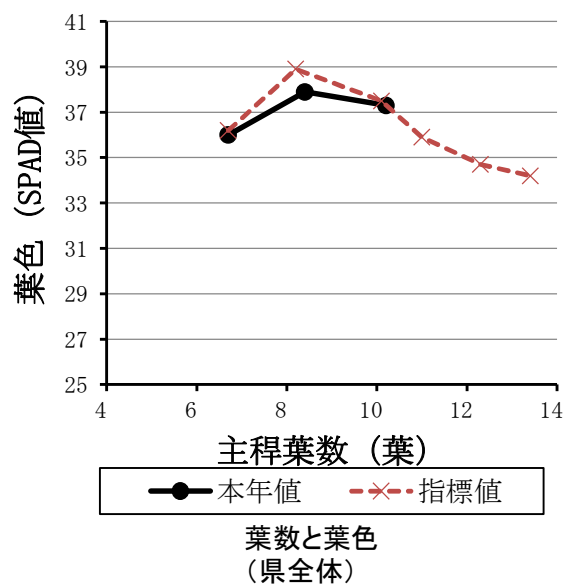
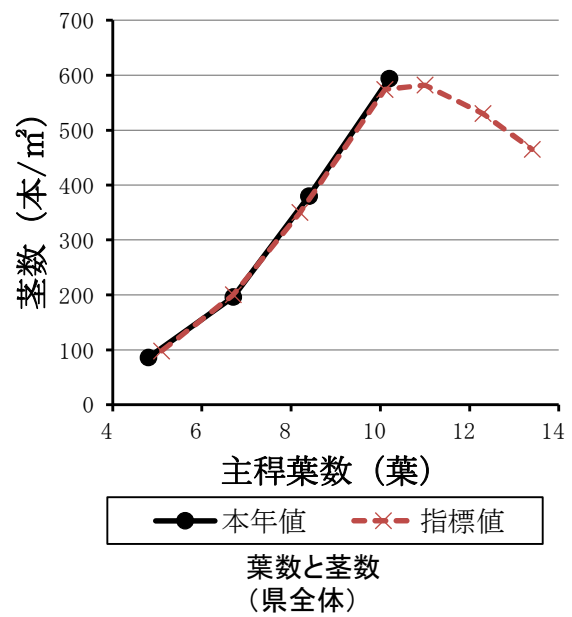
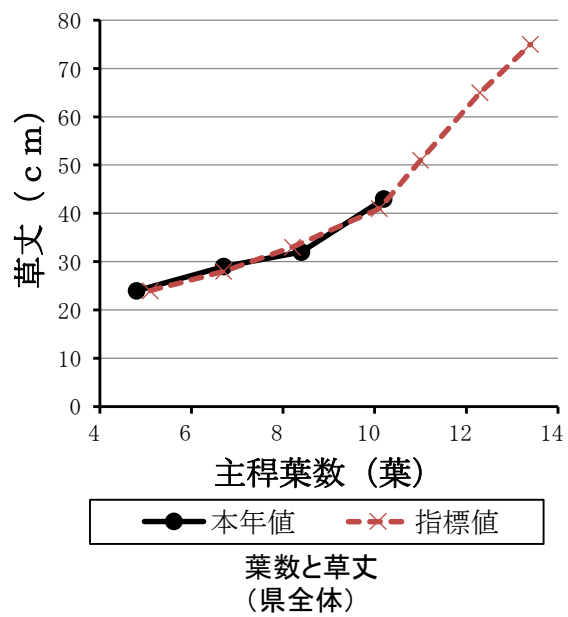
● 本年値 × 指標値

葉数の推移
(県全体)



● 本年値 × 指標値

葉色の推移
(県全体)



こしいぶき (参考)

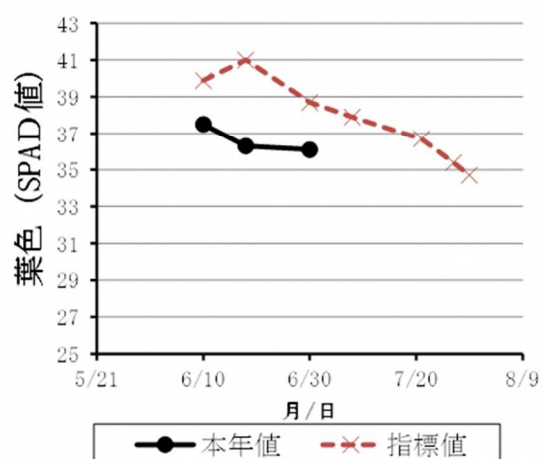
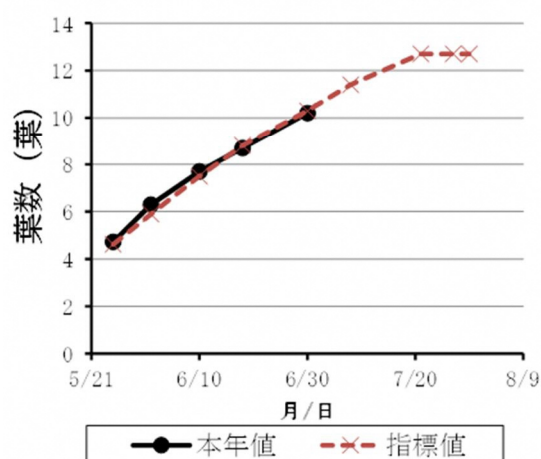
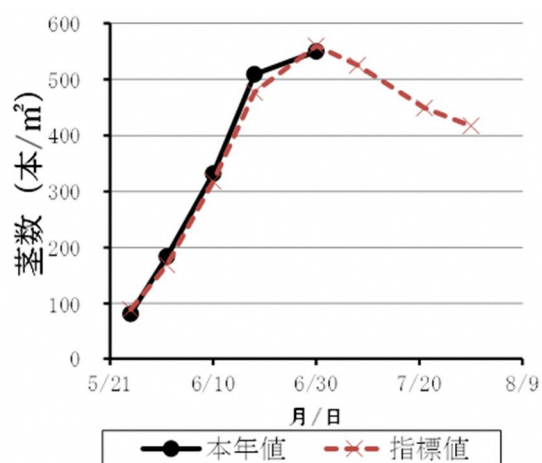
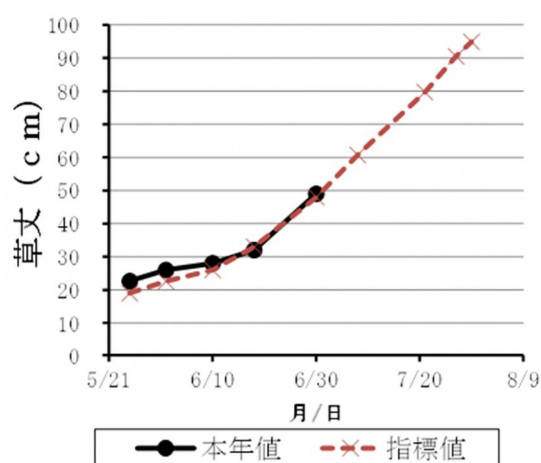
指標値（生育のめやす）に比べ、草丈は「並」、茎数は「並」、葉数の進みは「並」及び葉色は「淡い」です。

項目	本年値	指標値	指標値との比較	指標値比・差
草丈	49 cm	48 cm	並	102%
茎数	550 本/m ²	560 本/m ²	並	98%
葉数	10.2 葉	10.3 葉	並	-0.1 葉
葉色 (SPAD 値)	36.1	38.7	淡い	-2.6

注1) 化学肥料栽培。田植え 5 月 11 日、栽植密度 20.5 株/m²

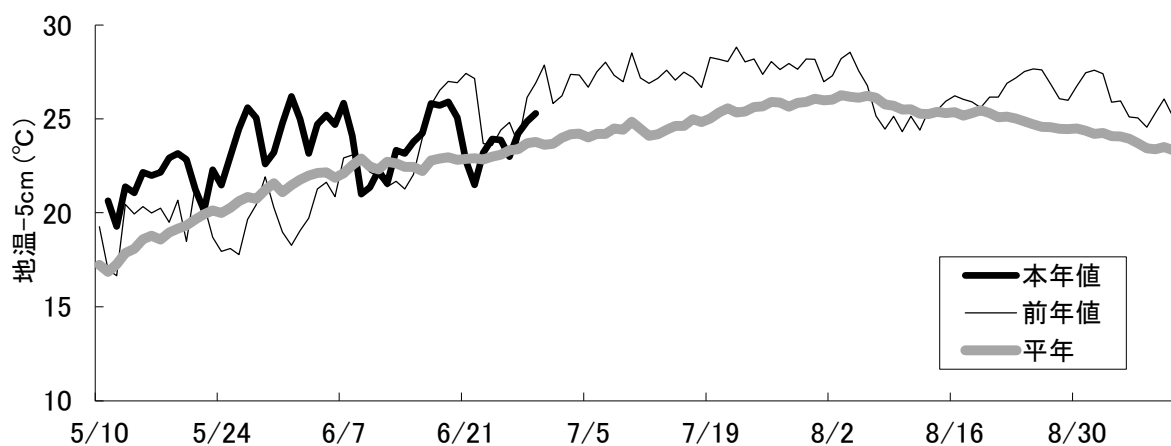
注2) 基肥窒素成分量 3.0kg/10a

注3) 長岡市長倉町（作物研究センター）の生育調査ほデータ

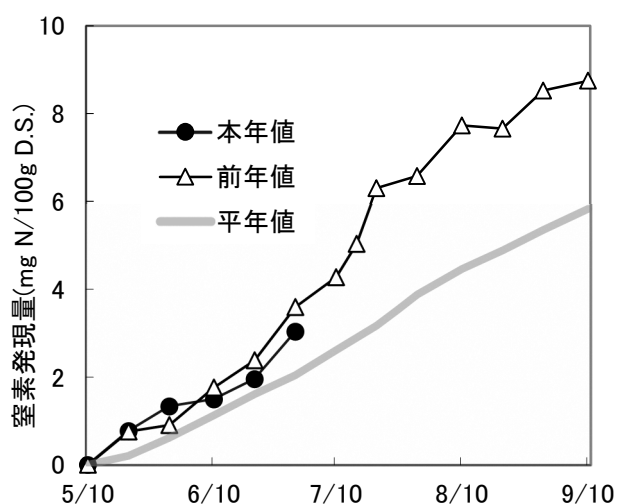


2 地力窒素の発現状況

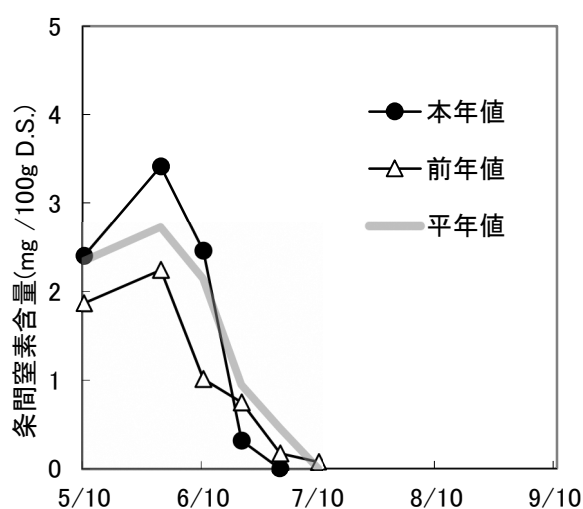
6/18～6/29 の期間の日平均地温は平年差+1.1℃で平年よりやや高めに推移しました。この期間の地力窒素発現量は平年よりやや多く推移しましたが、条間窒素含量は平年よりも早く減少しました。



水田地温（5 cm 深）の推移
(農業総合研究所内ほ場、基盤研究部調査)



地力窒素発現量の推移(6月29日)
(農業総合研究所内ほ場、基盤研究部調査)
初期値=0、田植日：5月11日、化学肥料栽培
基肥窒素成分量：3.5 kg/10a



条間窒素含量の推移(6月29日)
(農業総合研究所内ほ場、基盤研究部調査)
田植日：5月11日、化学肥料栽培
基肥窒素成分量：3.5 kg/10a

※「2 地力窒素の発現状況」は、7月9日までの掲載となります。